

2 エゴマ栽培適性試験（3年目）

1. 目的

帯広市地域における「エゴマ富山早生種」の栽培適性を検証する。

2. 実施場所

帯広市川西町 帯広市農業技術センターほ場

3. 栽培方法

(1) 品種 : 「富山早生種」、対照として「北海道産種」

(2) 面積および区制 : 200 m² (1 区 100 m² × 2 品種)

(3) 耕種等概要

土壌区分	土性	前作	栽植密度	栽培方法	播種月日
沖積土	壤土	てん菜	80cm×30cm	露地直播・べた掛け	5/23

※1 株6粒播き1本立

土改資材	基肥施肥量 (kg/10a)					病虫害防除
	川西豆用2号	窒素	磷酸	加里	苦土	
60kg/10a	90	4.05	18.9	9.0	4.05	無

4. 試験結果

(1) 生育季節及び作業内容

		富山早生種	北海道産種
播種	月日	5/23	5/23
播種粒数	粒	6	6
べた掛け被覆	月日	5/23~6/26	5/23~6/26
出芽期	月日	6/3	6/3
間引き	1回目 月日	6/26	6/26
間引き	2回目 月日	7/10	7/10
摘心（一部試験）	月日	7/20	7/20
除草	月日	随時	随時
開花始め	月日	8/22	8/27
成熟期（莢黄変 70%）	月日	9/29	10/12
収穫	月日	10/4	10/16
脱穀・調整	月日	10/24	10/31

播種後の好天により出芽は良好であった。べた掛け終了後の6月26日に1回目の間引きを行った。初期生育は北海道産種が富山早生種より若干優っていた。

6月中旬以降の低温、多雨、日照不足により生育が一時停滞したが、その後は回復し順調に推移した。

開花始めは富山早生種が8月22日、北海道産種が8月27日で5日遅く、ほぼ前年並みであった。生育はやや徒長気味であったが9月5日未明の台風により両品種とも倒伏が発生した。成熟期は富山早生種が9月29日、北海道産種が10月12日で13日遅かった。

7月26日生育調査では両品種にほとんど差が無かったが、9月7日調査では富山早生種が草丈は高かった。

表 生育調査結果

調査日	項目	富山早生種	北海道産種
7月26日	草丈 (cm)	50.6	50.3
	葉数 (枚)	15.8	16.0
9月7日	草丈 (cm)	154.4	147.8
	葉数 (枚)	23.6	27.6

(2) 収量調査

成熟期の早い富山早生種は10月4日に、成熟期の遅い北海道産種は10月16日に刈り取りを行い、ガラス室で乾燥させた後、脱穀調整は富山早生種が10月24日に、北海道産種は10月31日に行った。

10a 当たり製品収量は富山早生種が103.1kg、北海道産種が125.9kgで、北海道産種がやや多収であった。

表 収量調査結果

項目	富山早生種	北海道産種
製品収量 (kg/10a)	103.1	125.9

5. 考察

本年6月中旬～7月中旬まで低温、多雨、日照不足の気象条件のもと、富山早生種は北海道産種より生育が早く、9月下旬に成熟期に達し、製品収量も北海道産種より若干少ないものの10a 当たり収量が103kgと高かった。昨年に引き続き10a 当たり収量が100kgを超えたことから、帯広地域における富山早生種の栽培適性が高いと判断された。

生育写真



5.28 播種後のべた掛け



6.26 第1回目の間引き



7.9 初期生育

左が北海道産種 右が富山早生種



8.1 生育状況

左が北海道産種 右が富山早生種



9.5 台風により倒伏が発生



10.3 富山早生種成熟期



左が北海道産種 右が富山早生種

10.4 両品種の成熟状況の違い



10.4 富山早生種刈り取り



10.24 脱穀調整